

養成人材

社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育上の目的とする。

学位授与の方針

専門職学位課程（教職大学院）は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育目的とする。この教育目的を達成するために、以下の資質・能力を獲得した者に対し修了を認定し、教職修士（専門職）を授与する。

1 高度な知識・技能に基づいた授業実践力

子どもたちの個性に応じた学習支援に配慮しつつ、彼らが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる高度な力

2 子ども理解に基づく学級経営力

子どもたちや子どもたちを取り巻く現状を多面的多角的に把握した上で、良好な人間関係を構築し、彼らの思いや願いを受けとめた適切な学級経営ができる高度な力

3 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力

学校課題を的確に把握して問題解決をはかり、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうる高度な組織マネジメント力

4 深い省察に基づく実践研究力

教職実践者として実践を深くリフレクションしながら、実践と理論を往還する高度な研究力

現職教員として入学した者には、上記1～4.に加えて以下の資質・能力の獲得を求める。

5 学校運営改善を推進する提案力

最新の教育動向を踏まえ、学校現場に向けて、効果的な授業の改善策や学校運営の改善策を提案し推進していく高度な力

6 地域や他校との連携を円滑に進める調整力

対話を通して、地域や他校との適切な調整を行い、連携を推進することができる高度な力

教育目標

- 1 高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成
- 2 子ども理解に基づく学級経営力の育成
- 3 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成
- 4 深い省察に基づく実践研究力の育成
- 5

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4	教育目標 5
	教育課程の課題探求	教育課程の編成と実施に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力の基礎を獲得する。	◎				
	教科指導の課題探求	学校における実践的な教科指導力の育成を目標とする。	◎				
	生徒指導・教育相談の課題探求	高度な知識・技能に基づいて子どもたちの主体的・協働的な学びを促進させることのできる力量をつけるために、本授業では、生徒指導と教育相談、これらに関わりの深い特別支援教育に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力の基礎を獲得する。		◎			
	子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践	子供の発育発達の可能性と学校・保健室・養護教諭の関わりについて、「養護をつかさどる」ことの意味について考えることができる。養護教諭の実践事例を通して、養護教諭の職務機能の内在的可能性について探求し、実践力を高める。				◎	
	教育経営の課題探求	学校制度の意義と課題を踏まえ、授業や学校（園）教育活動の構想、構成、構築など学校教育活動に関わる運営、推進についての知識や技能を教育経営の観点から実践的な事例を通して学び、学校（園）マネジメント力の獲得を目指す。			◎		
	現代の健康問題と学校保健の実践的課題	現代の子供の健康課題について、実態を把握するとともに、学校における対応について、事例を通して子供の発育発達の可能性を考えることができる。学校保健の法・制度に支えられながらも一人ひとりの子供に向き合う学校保健活動を家庭・社会と連携しながら創造できる企画・調整・実行能力を養う。			○	◎	

	学校と教職の課題探求	子どもと教師、学校内の教師の同僚性、教師と保護者・地域といった関係の中で生ずる学校と教職をめぐる現代的諸課題に対して、多様な研究分野や実践現場で形成された理論的視点や実践的見識を理解すると共に、そこで形成された視点を具体的な状況のなかでの実践的省察や活動的探究に活かしてゆく実践的な専門的力量を形成する。	○	○	◎	○	
	実地研究Ⅰ（学校保健）	一人ひとりの子供と向き合いながらの実践として、科学的根拠に基づいた実践を展開できる。また、学校保健システムと関連して、「理論の実践化」と「実践の理論化」を往還しながら活動の省察を行い、実践力の向上を図る。				◎	
	実地研究Ⅱ（学校保健）	学卒院生は、実地研究Ⅰ(学校保健)及び課題研究Ⅰ(学校保健)により深めた学校保健についての課題意識をもとに、実地研究Ⅱ(学校保健)における個々の実践的課題の探求に取り組み、状況との対話における実践力を高める。現職院生は、勤務校において、課題解決に向けて実践的に研究を継続する。課題の明確化とその分析をもとに、実際に学校内外と協働して課題解決に取り組む力量や保健室における対応力の改善、また様々な教育的ニーズに応じた適切な発達支援等を組織的にリードし、学校全体の保健管理面の向上や発育発達上の支援の充実をはかる能力を養う。				◎	
	課題研究Ⅰ（学校保健）	実地研究で顕在化した各授業者の課題について、各自テーマの内容について熟考し、学校保健の専門性、教職の専門性との関係から課題の本質に迫る。課題の探求は、各回のテーマを考慮して認識を深める。				◎	
	課題研究Ⅱ（学校保健）	課題研究Ⅰにおいて顕在化した保健管理、保健教育、保健組織活動の課題と実践構造について、個々の実践と学校における他職種との連携、さらに学校間や地域とのつながりの中で、個々の課題と学校や地域に共通した課題を整理しながら、具体的な改善策を探求する。				◎	
	学校保健の理論と実践の探求	家庭、地域、医療機関等の連携から、今日の学校保健の課題について明確し、その課題の本質的課題に迫ることができる。				◎	
	保健教育の実践と課題の探求	教師が子どもの学びと向き合いながら保健の授業を創造し、デザインする考え方（思考様式）と新たな保健授業改革のヴィジョンを明確にできる。保健の学びは、特定の文脈で遂行される特定の内容の特定の認知の実践として展開されることから、個々の学びを生起させる授業実践の多様なヴァリエーションについて理解し、実践できる。				◎	
	保健管理の実践と課題の探求	医学のエビデンスに基づいた実践の前提として、子供の保健管理上の課題を明確にとらえることができる。さらに、学校における保健管理機能と家族、医療機関との連携の中で、学校保健管理システムを再構築できる力を養う。				◎	
	養護教諭の専門家としての成長	教職の高度化と専門職化にともなう養護教諭の職務機能を明確にできる。さらに実践上の課題と接続させながら新たな専門職像をデザインし、実践力の向上を図るとともに、資質・能力の向上と養成、研修機能のあり方を探求する。				◎	
	教育生理の臨床と子供の成長課題	学校における子供の発育発達上の課題について、教育と医療との関わり、子供をとりまく環境の課題を明確にし、発育発達保障としての学校教育のあり方を模索する。子供に見られる疾病のメカニズムを理解し、学校における実践上の配慮について理解する。		◎			
	学級づくり論	具体的な教育実践の事実に即しながら、教師が身に養う学級づくりの実践的知恵の奥行きを臨床的かつ共同的に明らかにしてゆくことができる。		◎			
	学校と社会論	現在進行している学校教育の改革動向を深く理解しながら批判的に吟味し、これからの時代を生きる子どもたちをどう育てていくのか、自分なりの展望を持てるようにする。		◎			

	学校と児童生徒理解の心理学	今日の学校における学習指導、生活指導などにわたる諸課題を子どもの学びと生活の観点からとらえ、子ども理解の深化を図りながら、諸課題に対する実践への示唆を得る。		◎			
	学校臨床心理学実践演習	生徒指導と教育相談に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力の基礎を獲得することである。		◎			
	心理学的方法の活用と探求	アンケート調査を中心としたデータの収集法、および、収集したデータの質的・量的分析方法を理解し、適切に利用できる。		◎			
	カウンセリング実践演習	教育現場で応用可能なカウンセリングの理論や技法について実践的に習得する。		◎			
	心理・学習評価演習	教育評価や学力調査などの実態を多面から分析する視点と力量を培う。	◎				
	総合・道徳開発演習	生活科・総合的な学習（探究）の時間及び道徳教育カリキュラムを実際に構成し、効果的に学習指導を展開できる力量を形成する。	◎				
	教育工学開発演習	「NEO教育工学」の考え方を吟味し、＜教育＞を、社会の様々な問題を解決する手段として捉えることにより、社会の中における教育、具体的には学校や教師の位置付けを新たにすることで、教育実践に新しい糸口を見いだすことを目指す。	◎				
	発達臨床アセスメント演習	高度な知識・技能に基づいて特別な教育的ニーズのある子どもたちの主体的な学びを促進させることのできる力量を高めるために、☒ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態把握と効果的な指導のためのアセスメントの理論及び技法を修得する。		◎			
	特別支援教育実践研究	特別支援学校学習指導要領の変遷を理解する。☒ 特別支援教育実践に関わる理論を理解する。☒ 各種の実践を検討することを通して、特別支援教育実践のあり方を多角的に検討する。		○		◎	
	障害児教育実践の課題探求法	高度な知識・技能に基づいて特別な教育的ニーズのある子どもたちの主体的な学びを促進させることのできる力量をつけるために、本授業では、特別支援教育に関する考え方、制度、児童生徒の理解、支援の組み立てに必要な基礎理論について徹底した理解を深めるとともに、ること必要とされる方法論を習得することを目指す。		○		◎	
	インクルーシブ教育演習	インクルーシブ教育の理論動向を理解する。☒ 多様なインクルーシブ教育実践の理解する。☒ 特別支援教育が特殊教育の頃から積み上げてきた実践を踏まえつつ、インクルーシブ教育を実現する上での課題を検討する。		◎			
	障害児心理学の実践と課題A	発達障害児の適応の問題とその支援について学ぶ				◎	
	障害児心理学の実践と課題B	国際生活機能分類（ICF）の考え方について知識を整理した上で、障害のある児童生徒を対象とする教育支援の組み立て方について理解を深める。				◎	
	子ども支援の実践と制度	子ども支援に関する制度・政策・実践をめぐる国内外の動向を理解し、理論と実践の双方から「権利主体」としての子ども支援を行うことのできる専門的力の基礎を獲得する。				◎	
	保育内容と指導の課題探求	総合的・主体的な活動としての幼児の遊びの指導を具体的な実践事例を通して学び、保育内容の展開と幼児期の発達する姿、及び小学校への接続までを見通せる保育の構想力を身に付ける。特に、乳幼児の育ちを、他者との対話的・相互応答的關係性から見ることによって、保育者としての往還的・相互的かわりのスタイルを実践的に探求するとともに、そのための保育のデザインのスタイルを探求する。	◎				

	子どもの発達と教育相談の課題探求	1.乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解する☒ 2.乳幼児期の子どもの親の子育て、地域の子育て支援について理解する☒ 3.「10の姿」の理解、および小学校との接続・連携について理解する☒ 4.幼児期の子どもの多様な発達のニーズ、幼児教育・保育の実践における発達の理解と援助、保護者支援について理解する☒ 5.教育相談の理論と実践について理解する☒ 6.以上を踏まえた上で、幼児教育・保育の実践における子どもの援助と相談の計画を適切に立案する力および実践力を身につける		◎			
	<教育－社会－環境>基礎論	①教育問題と社会問題・環境問題とのかかわりについて理解を深める。②教育問題の解決と社会問題・環境問題との解決との協働のために必要な実践の内容やネットワークのあり方について理解を深める。		◎			
	子ども認識の思想と構造	「子ども」を理解するということはどういうことか。教育学分野及び幼児教育分野の基本問題を通じて理解を深める。		◎			
	子育て支援開発探求	幼児教育や「子育て」に関する理論を押さえつつ、事例を通して幼児教育における「子育て支援」の課題を探究し、その解決方法を学ぶ。	◎				
	幼児の音楽表現の開発探求	(学卒院生) ☒ 幼児の音楽表現に関する最新の研究知見を踏まえて幼児の音遊びや音楽表現の実践事例等を議論し、実践事例を詳細に分析することを通して保育者の役割や環境の構成について検討し、幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画が立案できるようになる。☒ (現職院生) ☒ 幼児の音楽表現に関する最新の研究知見を踏まえて、自らのこれまでの幼児の音遊びや音楽表現の実践を詳細に分析することを通して保育者の役割や環境の構成について検討し、幼児の音遊びや音楽表現に関する指導計画が立案できるようになる。	◎				
	言語文化系教育の理論と実践 A (国語)	言語文化系教育(国語)を総合的に俯瞰する知見を獲得し、広く国語の授業実践に生かせる主体的問題意識を涵養する。	◎				
	言語文化系教育の理論と実践 B (英語)	英語教育関連の論文を読めるようになる。☒ 英語で調査研究を発表できるようになる。	◎				
	言語文化系教育の授業内容探求 A (国語)	言語文化系教育(国語)の授業内容について、発達及び習得に関する段階的な観点から多元的に知見を深め、関連させながら活用する力を涵養する	◎				
	言語文化系教育の授業内容探求 B (国語)	国語教育に関する総合的な実践的知見を得て、授業実践に取り組む力を身につけること。	◎				
	言語文化系教育の授業内容探求 C (英語)	英語授業を分析的に視聴する力を育成する。	◎				
	言語文化系教育の授業内容探求 D (英語)	英語授業を分析的に視聴する力を育成する。	◎				
	言語文化系教育の教材研究と実践 A (国語)	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。	◎				
	言語文化系教育の教材研究と実践 B (国語)	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。	◎				
	言語文化系教育の教材研究と実践 C (英語)	英語の文学性を踏まえた授業実践力を身につける。	◎				

	言語文化系教育の教材研究と実践D (英語)	英文法に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身に付けることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。	◎				
	社会科教育の理論と実践A	社会科教育の実践研究の現在の到達点について理解する。	◎				
	社会科教育の理論と実践B	社会科教育実践の開発と有効性を検証する。	◎				
	社会科教育の授業内容探求	社会科(地理・歴史・公民)の内容に関して小学校・中学校・高等学校の内容を俯瞰的に捉える能力、および各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察しうる能力を育成する。院生が児童生徒の理解を深められる、授業づくりの実践的指導を行う。	◎				
	社会科教育の教材研究と実践A	社会科(そのうち地理・歴史)の内容に関して、小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求・選択する力を身につけることをめざす。すなわち、既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性を見極め、発見する力、教材の背景にある学問的達成を把握する力、それらを教育実践に活かす能力を獲得することをめざす。	◎				
	社会科教育の教材研究と実践B	本授業は、社会科教育のうち、公民的分野および高等学校公民科の教科教育を行う上で必要な基本的・専門的知識や教材研究を行う方途を身につけ、それらを授業実践でより効果的に活かす方途について考えることを目標とする。	◎				
	自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学)	小学校算数、中学校・高等学校数学の授業において、授業中における学習者の活動と教師の指導を「関係的に」理解する。	◎				
	自然科学系教育の理論と実践B (理科)	後藤：自然科学の理論をどのように授業で扱っていくのか、構成主義に基づいた探究型授業を展開できるようになる☑ 中島：理科教員としての専門性を獲得する。具体的には、理科教育の学力と評価について、現在の理科教育における課題解決に必要な要素とその具体的な授業を考察できる。	◎				
	自然科学系教育の授業内容探求A (算数・数学)	小学校算数、中学校・高等学校数学の授業において、授業中における学習者の活動と教師の指導を「関係的に」理解する。	◎				
	自然科学系教育の授業内容探求B (算数・数学)	中学校・高等学校数学の授業について、それぞれの授業内容と関連する既習の事項や発展的内容を理解する。	◎				
	自然科学系教育の授業内容探求C (理科)	物質の性質、運動とエネルギー、自然現象の規則性や法則性の内容に関して小学校から高校までの学習内容を俯瞰的に捉え、各単元で有機的なつながりを持たせつつ授業を行う能力を修得する。	◎				
	自然科学系教育の授業内容探求D (理科)	小学校から高校まで理科第二分野(生物・地学)の学習指導において、「生命」「地球」に関して多様性と共通性、時間的・空間的視点で捉える力の育成を目的として、野外観察・実験をいかに取り入れるべきか、その観察・実験をもとにどのように児童・生徒の理科への興味関心を高めるかを探究する。	◎				
	自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学)	代数学・幾何学・解析学・確率統計学・数理学分野に関連した内容を深く理解する。	◎				
	自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学)	代数学・幾何学・解析学・確率統計学・数理学分野に関連した内容を深く理解する。	◎				
	中核的理科教員(CST)養成講座	以下の5つの領域に関する知識と技能を習得する☑ a)最先端の自然科学の状況☑ b)魅力的な観察実験技能☑ c)実践的理科指導法・マネジメント☑ d)理科の才能育成と科学研究指導法☑ e)科学コミュニケーションの基礎と応用	◎				

	音楽科教育を中心とした音楽教育学の諸理論を理解する。☒ 授業の実践場面を支える音楽の知識・技能を陶冶する。☒ ☒ 力量のある質の高い教員となるために、教科や専門分野に関する専門的な知識・技能を身につけるための科目である（教育目標1及び2に対応）。	◎				
芸術系教育の理論と実践A（音楽）						
芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得できたか。	◎				
	領域「表現」の教育的意義を理解する。☒ 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。☒ 音楽表現の知識・技能を高める。☒ 模擬授業を通じて、指導方法を改善する。	◎				
芸術系教育の授業内容探求A（音楽）						
	領域「鑑賞」の教育的意義を理解する。☒ 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。☒ 音楽鑑賞に関する知識・技能を高める。☒ 模擬授業を通じて、指導方法を改善する。	◎				
芸術系教育の授業内容探求B（音楽）						
	各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察し、図画工作科及び美術科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を習得する	◎				
芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）						
	各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察し、図画工作科及び美術科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を習得する	◎				
芸術系教育の授業内容探求D（図工・美術）						
	領域「表現」の授業を構想し、今日的課題を踏まえて学習指導案を作成する。☒ 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。☒ 音楽表現に関する知識・技能を高める。☒ 模擬授業の実施と省察を通じて、指導方法を改善する。	◎				
芸術系教育の教材研究と実践A（音楽）						
	領域「鑑賞」の授業を構想し、今日的課題を踏まえて学習指導案を作成する。☒ 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。☒ 音楽鑑賞に関する知識・技能を高める。☒ 模擬授業の実施と省察を通じて、指導方法を改善する。	◎				
芸術系教育の教材研究と実践B（音楽）						
	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得する。	◎				
芸術系教育の教材研究と実践C（図工・美術）						
	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得できたか。	◎				
芸術系教育の教材研究と実践D（図工・美術）						
	①我が国と諸外国の教科内容について検討し、情報化社会に対応した指導の在り方について考察することができる。☒ ②既存の教材や指導法の問題点を指摘し改善案を提案することができる。	◎				
体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求						
	体育学的な視点から、実践的な指導力に哲学的な根拠を持てるようにする。	◎				
体育・保健体育科教育の理論と実践A						
	運動学的視点から体育・保健体育の指導へ応用できるようにする。	◎				
体育・保健体育科教育の理論と実践B						
	特に、教材づくり、指導法、評価法について、器械運動系、陸上運動系及び表現運動・ダンス系の領域に応用できるようにする。	◎				
体育・保健体育科教育の教材研究と実践A						
	ゴール型(バスケットボール)及びネット型のスポーツの指導において、的確に指導できるだけの知識と技能を身につける。	◎				
体育・保健体育科教育の教材研究と実践B						

	技術科教育の理論と実践	到達目標は、適切な授業設計と実践力の育成を目指す。課題により講義で扱った理論と実践に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容、レポート課題により評価する。	◎				
	技術科教育の授業内容探求 A	生物育成における学習内容および教材の構成を整理できる。☒ 技術科教育の授業設計力、教材構成力が向上する。	◎				
	技術科教育の授業内容探求 B	到達目標は、適切な授業設計と実践力の育成を目指す。課題により講義で扱った理論と実践に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容、レポート課題により評価する。	◎				
	家庭科教育の理論と実践	多様な事例の分析や授業分析を試みながら家庭科教育の専門的な力量や教師としての力量を高める。	◎				
	家庭科教育の授業内容探求 A	小・中・高等学校家庭科における家庭経営領域、保育領域、住生活領域の各領域について、自分自身の学習指導（授業参観含む）経験上抱いた課題を明確にし、改善した学習指導案を立案できる。	◎				
	家庭科教育の授業内容探求 B	小・中・高等学校家庭科における衣生活領域・食生活領域の学習指導要領の内容を理解し、課題を抽出し、その課題を解決する授業を立案できる。	◎				
	技術科教育の教材研究と実践 A	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につける。☒ 教材の特性や新しい機能を見極められる。	◎				
	技術科教育の教材研究と実践 B	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につける。☒ 教材の特性や新しい機能を見極められる。	◎				
	家庭科教育の教材研究と実践 A	小・中・高等学校家庭科における家庭経営、保育、住生活の各領域において適切な教材を作成し、その他の領域とも相互に関連付けながら効果的な授業計画を構想できる。	◎				
	家庭科教育の教材研究と実践 B	衣生活と食生活の領域を中心に家庭科の他領域との連携も視野に入れながら教材を作成し、効果的な授業を構想することができる。	◎				
	現代的・地域的教育課題の共同探求	現代的教育課題、地域教育課題に丹念に向き合い、多様な領域や機関の他職種専門職と協働して課題を解決するために必要なことについて理解を深め、実践現場に還元していくことができるようにする。			◎	○	
	探求活動演習Ⅰ	院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探求活動を行うことができる。					◎
	探求活動演習Ⅱ	探求活動演習Ⅰに引き続き、自らが設定した探求テーマに関して教員から指導を受けながら探求活動を進めることができる。					◎